

## 会 議 結 果 の お 知 ら せ

令和7年度第4回宮古市男女共生推進委員会を次のとおり開催しました。

令和8年3月26日

宮古市男女共生推進委員会

- 1 開催日時  
令和8年3月17日(火) 午前10時～午前11時
- 2 開催場所  
市民交流センター1階 会議室3
- 3 議題  
第6次宮古市男女共同参画基本計画（案）について
- 4 会議の概要  
別添のとおり
- 5 問い合わせ先  
市民生活部市民協働課男女参画・協働推進係 電話 0193-68-9080

## 令和7年度第4回宮古市男女共生推進委員会

- 1 出席者（8名）  
宮城貞子委員長、坂本紗綾委員、鈴木将人委員、竹原雅子委員、  
伊藤エミ子委員、加藤勇介委員、花輪政文委員、腹子摩裕美委員
- 2 欠席者（6名）  
八木澤江利子委員、高坂一男委員、竹谷八千代委員、吉水和也委員、  
伊藤清香委員、佐々木正宣委員
- 3 事務局出席者（4名）  
市民生活部長 西村泰弘、市民生活部市民協働課長 和美邦彦、  
市民生活部市民協働課男女参画・協働推進係長 橋場淳、同係 中島奈穂子主任
- 4 傍聴者  
なし
- 5 議事等  
第6次宮古市男女共同参画基本計画（案）について事務局から説明をし、その後  
審議を行い、承認された。

質疑応答内容

質問・意見	回答
<p><b>【議題「第6次男女共同参画基本計画(案)について」】</b></p> <p><b>(委員)</b>            前回の委員会で出た意見がしっかりと反映されていると感じた。一方で、前回委員会で意見のあった「目標達成に至らなかった原因究明と対応」は、引き続きの課題であると考え。また、これまでの計画の変遷を振りかえることも、数値の変化や傾向を見るうえで重要であると考え。どのような取組が効果的だったのか、逆に、効果が薄い取組はどうすべきなのか、どの層にアプローチをしたら効果があるのか、検討していく必要があると感じる。(意見)</p> <p><b>(委員)</b>            計画を具体化して実践へと進めていくためには、過去の反省点を適切に検証していく必要があると考え。(意見)</p> <p><b>(委員)</b>            今回の計画は、今まで以上に踏み込んだ表現で、具体的に記載されていると感じている。市の男女共同参画への取組が始まって20年以上が経過し、これまでの計画の変遷をまとめた資料があってもよいと考え。市と委員会とで、計画への共通認識を持ちながら議論を進めるためにも必要ではないかと考える。(意見)</p>	<p><b>(事務局)</b>            今年度は基本計画を作成し、来年度に実施計画を作成する。第5次計画では、実施計画の項目が多くなりすぎている印象があった。第6次計画では、計画内容を確実に実現するため、必要な実施項目に絞って計画を立て、目標達成に向けてどの程度進捗しているのか、良かった点や改善すべき点が適切に評価できるように取り組んでいきたい。</p>

**(委員)**

これまで計画策定に携わってきた方々に感謝申し上げます。男女共同参画に関心がある方は、こうした情報を積極的に得たいと思っているが、関心のない方にはなかなか届きにくいと感じている。私たち20代・30代の若い世代が少しずつ広めていくことが大切だと思っている。前回の委員会でも、男女共同参画サポーターの人数増加を目標値として設定している点について、人数が増えていけば良いものなのか、という意見を述べたが、まずは「意識すること」が最初のステップだと考える。こうした仕組みがあることを、私自身も広めていきたいと思う。(意見)

**(委員)**

「男女共同参画」という言葉自体が、壁になっているように思う時もある。「私は男女共同参画という言葉が大嫌い」と言われることもある。言葉の硬さや印象から、距離を置いてしまう人もいると感じる。(意見)

**(委員)**

「男女共同参画」という表現は行政的で、市民には敷居が高く、堅苦しさを感ずるのではないかと考える。(意見)

**(委員)**

3月8日の国際女性デーに合わせ、男女の賃金格差や家庭での労働時間の違い、国別の男女格差などが新聞報道されている。自分に関心があるのでそうした記事をよく読むが、関心のない人は「行政的な話かな」と思うのかもしれない。関心があれば身近な問題として捉えられるが、興味がないとどうしても自分ごとではない、遠い話に感じられてしまうのだろうと思う。(意見)

**(事務局)**

男女共同参画に関心のない方に、情報をどう届けていくかは、第1回委員会でもご意見をいただいたとおり、最も重要な課題の一つだと考えている。男女共同参画サポーターについては、前回の会議で、サポーターの皆さんが集って意見交換できる場が必要ではないかというご意見もいただいたので、そうした点も含めて検討していきたい。男女共同参画は私生活・社会・職場など、あらゆる場面で必要な取組や目標があると改めて感じている。さまざまな場面に合うテーマの研修も考えながら進めていきたい。

**(委員)**

いかに身近なものであるかを伝えられるかが大事だと思う。そのためにはどのような言葉や伝え方をした良いのか。まずは講座へ参加してもらうことがきっかけの一つになると思う。自分で感じ取ってもらうまでが難しいところだと感じる。(意見)

**(委員)**

最近、男性と女性が平等に生きていくことは、生殖能力の違いや身体の構造の違いから、不可能に近いのではないかと考える。身近にも、妊娠して、つわりでずっと働くことができない女性がいる。自分がもし妊娠したらずっと働けないのかと思うと、これからの予定も立てられない。毎月の生理で体調も崩すこともある。男性と一緒に予定を立てて働いていくことは非常に難しいことと感じる。男女共同参画は、女性が男性に寄っていくということではなく、お互いが補い合えるような計画であってほしい。(意見)

**(委員)**

上記の意見は、非常に大事な考え方だと思う。どちらか一方に寄せるのではなく、それぞれの良さを生かして「らしく」を尊重することが大切である。作業着の衣類メーカー「ワークマン」では、「ワークマン女子」というブランドを持っていたが、性別に捉われず誰もが利用しやすい環境づくりを目指す取組として「Workman Colors」へ名称変更した、という報道があった。平等といってもどちらかに寄せることなく、それぞれの特性を活かすという意識を持つことは素晴らしいことだと感じた。

事務局では、前回の委員会を踏まえ、文言の調整を行い、各委員の意見が反映された計画案を策定した。今後この計画を着

**(事務局)**

計画の基本理念など柱になる部分で、第5次では「男女がともに」という書き出しだったところを、第6次では「すべての人が」という表現に置き換えた。委員ご意見のように、男性と女性が同じように、ということではなく、一人ひとりが自分らしく生きやすい社会を目指すというところが、今回の計画づくりのテーマの一つでもあった。世の中の変化に合わせていきながら、取組を進めていきたい。

実に進めていくために、委員一人ひとりが微力ながらも、実現に向けた取みを進めていければと思っている。(意見)

**(委員)**

計画における意識啓発の部分が重要になると考える。男女共同参画に関わる事柄とはどのようなものなのか、まずは知ってもらう記事や取組を発信していくことが大事ではないかという印象を受けた。

**(委員)**

基本課題Ⅱ「誰もがともに活躍できる社会づくり」の基本目標Ⅱ-1「家庭と仕事の両立支援の推進」と、基本目標Ⅱ-2「女性の職業生活における活躍の推進」、また計画本文28ページに示されている適正な労働時間管理や育児介護、休業制度の活用促進、柔軟な働き方の導入については、積極的に推進していかなければと感じている。特に、柔軟な働き方の制度については、始業と終業の時間を自由に決めることができる「フレックスタイム制」がもっと普及されるべきだと考える。(意見)

**(委員)**

「育児はお母さん」という意識が根強く残っていると感じる。お母さん方も働く能力を持っているが、子育てに力を注がなくてはならなかったり、介護を担っている方もいたりして、短時間労働を強いられているケースも多いように感じる。男性も育児の時間というものを積極的に取れるのであれば、お母さん方も社会で力を発揮できる機会が増えると考え。(意見)

**(委員)**

計画の中に成果目標として「障がい者が社会参加しやすい環境についての市民満

**(事務局)**

意識啓発の重要性は、市としても認識している。今年度の取組で言えば、これまで

足度」というものが掲げられている。障害のある方が社会にどんどん出て活躍できるような社会にしていきたい。(意見)

「女性に対する暴力をなくす運動」に関するPRを、子育て支援室や乳幼児のいる世帯を中心に行っていたが、今年度は新たな層にもアプローチするため、小学6年生を対象に、性暴力に関する内容をまとめたパンフレットを配布した。今後も、さまざまな団体や事業者の皆さんと連携しながら、周知を広げていければと思っている。また、「男女共同参画」という名称に対する違和感については、庁内の会議でも話題に出ている。ただ、国でも「男女共同参画」という言葉を使っていることや、現状としてまだ女性のほうが負担を強いられている場面が多いことから、こうした表現を採用した。今後、状況が変わっていけば、名称についても検討されていくと考える。来年度は、実施計画で各課から具体的な事業を吸い上げていくほか、目標値や取組、現状について年度単位で照会し、調査していく予定である。その結果についても、しっかり検討していきたい。今回の計画では、成果目標に市民意識調査の満足度を多く採用したが、この数値を上げていくにはかなりの時間を要すると考える。長い期間がかかるが、この20年間の歩みを思うと、確実に意識は変えられると考える。さまざまな取組を継続し、この計画を進めていきたい。

以上